

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第48週 (11/26-12/2) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	48週	47週	46週	45週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	4
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					
		注意報	11/26-12/2	11/19-11/25	11/12-11/18	11/5-11/11	11/19-11/25
			48週	47週	46週	45週	47週
小児科	RSウイルス感染症		0	2	2	2	43
	咽頭結膜熱		0	1	1	1	56
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	53	33	43	40	367
	感染性胃腸炎		136	106	91	100	657
	水痘		4	6	1	1	59
	手足口病		7	12	14	16	120
	伝染性紅斑	○	24	12	16	9	105
	突発性発しん		5	8	10	9	46
	ヘルパンギーナ		0	0	3	4	15
	流行性耳下腺炎		1	1	0	0	11
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		7	0	4	6	104
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	1
	流行性角結膜炎		3	1	2	8	25
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	1	0	1
	マイコプラズマ肺炎		1	1	1	1	5
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	50歳代	IGRA検査	百日咳	男性	50歳代	抗体の検出
結核	女性	70歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体の検出	百日咳	女性	30歳代	抗体の検出
つつが虫病	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	80歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出等

・第48週は、結核5件(162)、つつが虫病1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(22)、百日咳5件(205)、風しん2件(84)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

### 定点当たり報告数 第48週のコメント

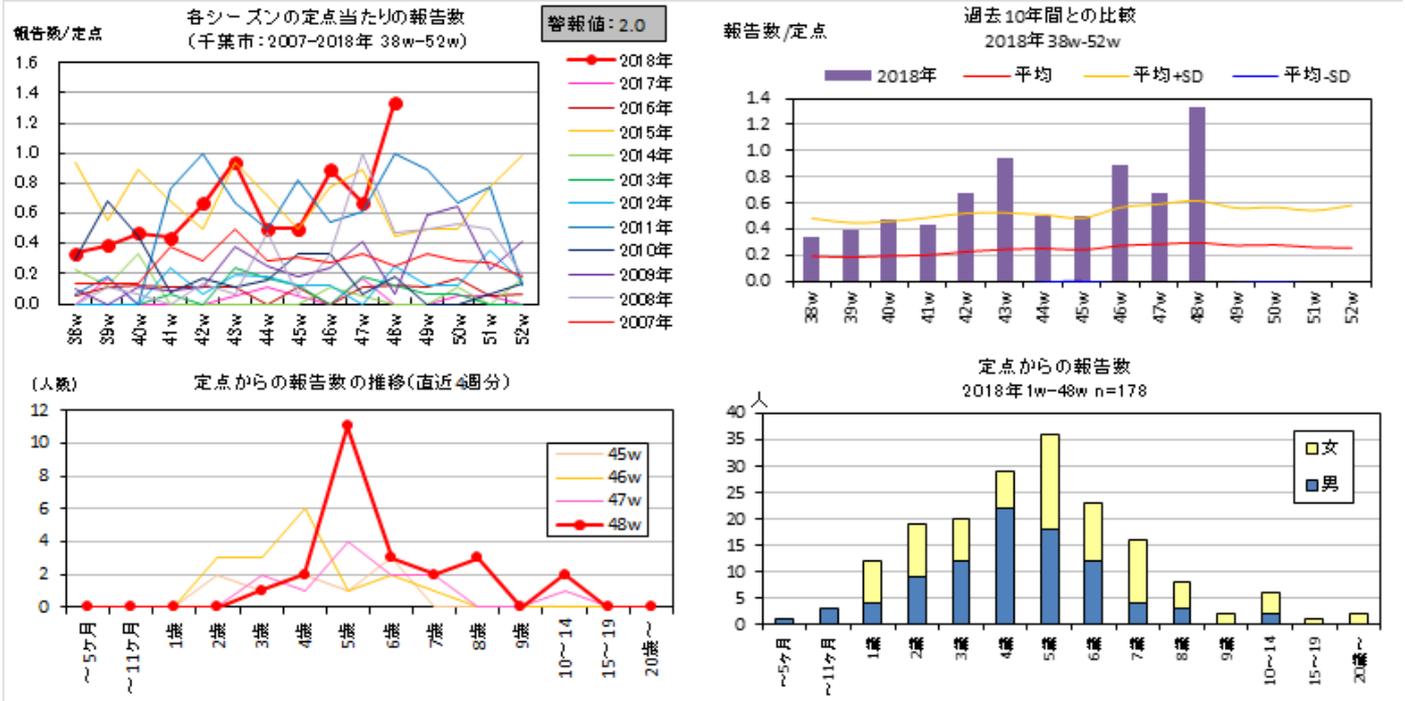
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.94となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<伝染性紅斑> 前週より増加し1.33となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

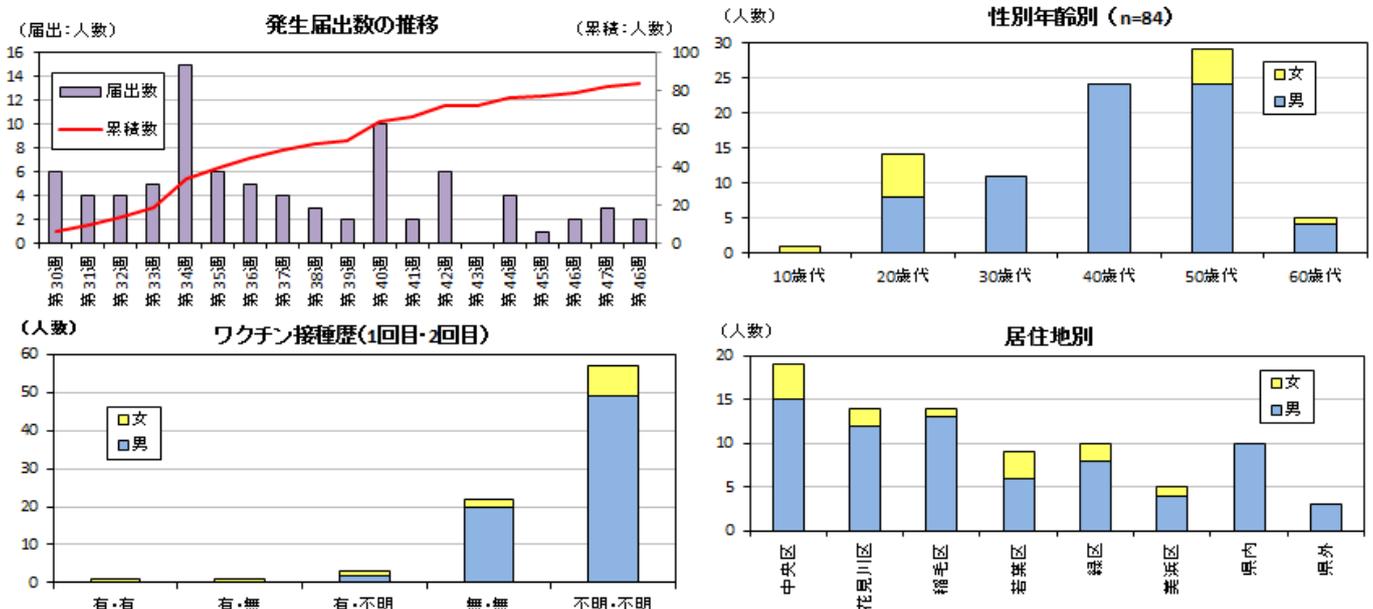
<伝染性紅斑>

全国レベルの第47週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、新潟県、東京都の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第48週は前週より増加し1.33となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は緑区(2.25/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第48週の累積報告数は178件で、性別では男性が50.6%(90名)、女性が49.4%(88名)で、年齢階級別では5歳(20.2%:36名)、4歳(16.3%:29名)、6歳(12.9%:23名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第47週の累積報告数は2313件で、昨年の同時期と比べると30倍近くとなっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県の前で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第48週は2件の発生報告があり、2018年の累計は84件となっています。性別は男性が84.5%(71名)、女性が15.5%(13名)で、年齢階級別は、50歳代(34.5%:29名)、40歳代(28.6%:24名)、20歳代(16.7%:14名)の順で多く、40歳代~50歳代の男性が中心となっています。居住地別では、中央区(22.6%:19名)、花見川区及び稲毛区(共に16.7%:14名)の順に多くなっています。患者におけるワクチン接種歴は、無し又は不明が9割を超えています。



## <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第47週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、福岡県、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第48週は前週より増加し2.94となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は緑区(8.0/定点)で流行発生警報開始基準値と並び最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第48週の累積報告数は417件で、性別では男性が52.5%(219名)、女性が47.5%(198名)で、年齢階級別では4歳(18.5%:77名)、5歳及び6歳(13.2%:55名)の順で多くなっています。

